

SCCJ(The Society of Cosmetic Chemists of Japan)は、化粧品の研究開発及び製造販売に携わる技術者への情報提供と交流・議論を目的とした学術団体です。2008年4月から日本学術会議協力学術研究団体として指定されています。会員数は1,843名(2020年4月1日現在)で、化粧品関連企業・団体・教育機関830社などから参加しています。また世界各国の化粧品技術者会で結成される国際化粧品技術者会連盟(IFSCC)にも加盟しています。

🍷 学会行事への参加であなたも化粧品業界人に。



SCCJでは年間を通じて様々な学会行事が盛りだくさん！日頃の業務に役立つ知見の他にも、思わぬ人脈の広がりや新しい情報に出会えるチャンスが目白押しです。

SCCJ 研究討論会

毎回、多岐にわたるテーマ発表に議論が盛り上がる。

最新技術の発表に、所属組織の垣根を超えて技術者同士が議論できる、SCCJの活動において重要かつ大規模な行事。講演後、パネルディスカッション形式等で聴講者が演者と直接対話することができ、あなたの技術や知識に深みが増すことは間違いありません。研究途上であっても独創的な成果を発表することも可能です。

ユニークで大胆な発想で得られた成果を披露して下さる若手演者を大歓迎いたします。

最新技術に対して白熱した議論



若手研究会

申し込み対象35歳未満推奨の研究会。聴講型セミナーでは味わえないグループディスカッション、グループワーク等を通じて、他の技術者との交流を深められる貴重な場。

いつもは競合会社の技術者同士もグループワーク中の共通課題について取り組んでいくうちに、意気投合してすっかりお友達に。



ワークを通じて皆、知り合いに

実践講習会

微生物対策、乳化・可溶化、レオロジー、スケールアップなど化粧品技術のうち、主に処方開発関連の知識習得を目的とした講習会。あなたが実務で直面している課題について、その道のエキスパートより、課題解決の糸口となる知識・技術をきっちり伝授いただけます。



多くの方が抱える難課題がスッキリ！

その他にも様々なSCCJならではの学会行事を企画しています。詳しくはWebサイトでご確認ください



「SCCJって」どんなところ？

What kind of society is "SCCJ" ?



SCCJ広報委員長

野村 浩一氏

(ポーラ化成工業株式会社)

このたびはSCCJ Pressを手にとっていただきありがとうございます。

一読しただけではわかりにくいかもしれませんが、実は技術者会の会則に、「技術の進歩」と「会員相互の交流」が2本柱として明記されているんです。同じ悩みを持つ技術者同士、所属の垣根を越えて意見を交わしながらステップアップしていく。そんな素敵な集まりに参加しない手はありません。

今年はIFSCC主催の国際学術大会が横浜で開催され、異国の技術者と意見交換できるチャンスでもあります。広報委員会ではそんな声を集めて、ウェブの「初めての方へ」コーナーにinvitationページとして絶賛掲載中です。騙されたと思ってぜひ覗いてみてください。

意外に、日ごろのお仕事の突破口になるかも知れませんよ。

Invitationページはこちら



IFSCC 特集号

日本化粧品技術者会広報委員会(D)

Welcome to IFSCC Congress 2020 Yokohama ~ Special Edition Featuring on IFSCC Japan Congress ~

2006年 大阪大会

化粧品業界ならではのイベントも

2006年、当時の日本は「モテ系ファッション女子」や「草食男子」が溢れていた。この年には大阪で開催され、ポスター最優秀賞として「顔面において毛穴が目立った外観をどのように改善するか」という、今でも大変興味深い演題が選ばれた。表彰式では現代感覚の和太鼓ショーや、時代の先駆けであるロボットによる演奏等が披露された。更にはタキシードやイブニングドレス、そして着物に身を包んだ参加者がダンスパーティーを楽しんだ。映画のワンシーンのような光景だ。実は、IFSCC 大会では毎回その国の文化やトレンドを満喫できるイベントやパーティーが用意される。他の国際学会では決して味わうことのできない華やかな雰囲気心が躍る。せっかく化粧品業界に身を置いているのであれば、一度は味わっておきたい。

そして2020年

来る10月20～23日に、みなとみらいのパシフィコ横浜にて、IFSCC 横浜大会が開催される*。

今回は、BEAUTY& HAPPINESS PUSHING BOUNDARIES (化粧品の領域を更に押し広げる) がテーマ。四日間に渡り、世界各国の技術者により熱い議論、討論が繰り広げられる。これからの化粧品産業の核となるグローバルな知見が目白押しだろう。最新のプレゼンテーションも楽しみの一つだ。

*COVID-19 禍に際し、状況によっては開催が変更される可能性もあります。ご了承ください。

時代の移ろい 発表ツールも変化



20世紀から21世紀へ。ツールは日々進化する。

パルセロナ五輪が開催された1992年、手書きの原稿を業者に依頼し、スライドを使った発表が一般的であった。青地に白の原稿からカラースライドへと変遷したのもこの頃。そして茶髪などのカラーヘアが人気となった時代でもある。2006年はトリノ五輪が開催され「イナバウアー」が流行語となった。携帯電話はガラケーが主流、この頃にはPOWER POINT が一般的で発表もカラフルに。囲み目やマスカラの重ね付けなど「盛りメイク」でより女性らしさを強調したスタイルが流行となった。

1992年 横浜大会

フケに着目

ポケベルがブームだった1992年、この年の最優秀賞は「フケ抑制剤の評価と開発に関する研究」で日本が受賞した。当時のフケ事情とそこに目を付けた研究について、受賞者の坂本哲夫氏は次のように語る。「洗髪を毎日するようになったが、スーツの裾にフケが目立つ人が多くいる時代でした。従来から酵母がフケの発生には関与しているとされ、フケ防止剤として殺菌剤が配合されてきていました。

洗髪後一日間のフケ発生量を160名のパネルで年間測定し、冬期の発生は夏季の約2倍となることを認めました。このことからフケの発生には洗髪回数が多い時代では酵母ではなく頭皮の乾燥が関与しているとの予測をたてました。

次いで殺菌作用はないが保湿作用がある物質をヘアトニックに配合してフケ発生量を四か月間測定した結果、効果を認め、その内容を発表させていただきました。」

この研究により、これまでの殺菌効果だけでなく頭皮に優しい製品の開発が進んだことは間違いない。今では毎日の洗髪は当然だが、それもこの研究があつてのことなのだろう。

世界の化粧品技術者が国や企業を超えて交流できる、IFSCC 学術大会。今年には日本で開催されるが、実は今回が初めてではない。過去に日本で開催された大会の紹介と共に、IFSCC 学術大会の楽しさをお伝えしたい。

14年ぶりにあの大会が日本で！
IFSCC 日本開催大会の過去とこれから



受賞式で称えられる坂本哲夫氏

数字で知る IFSCC 注目度は年々増加



日本の化粧品市場は2019年時点で、右肩上がり成長を続けているが、それを技術で支えるIFSCCの参加者数、発表数はどうであろうか。それを示したのが上記のグラフである。ご覧のように、参加者数、発表者数ともに増加傾向である。2020年大会も国内、国外から多くの方が参加予定であり、活発な議論が行われることが期待される。

